

NOK、国際シンポジウム

「Sustainable Sealing Materials for Hydrogen」を5月12日に共同開催 日独4機関による共同研究成果を発表、オンライン参加も受付中

NOK株式会社（本社：東京都港区芝大門、代表取締役社長執行役員グループCEO：鶴正雄、以下「NOK」）は、2026年5月12日（火）、ドイツ連邦材料試験研究所（※1、以下「BAM」）、九州大学、およびフロイデンベルグ・グループ（ドイツ）と共同で、国際シンポジウム「Sustainable Sealing Materials for Hydrogen」を開催します。

本シンポジウムは、上記4機関が参画する共同研究プロジェクト「安全な水素供給ネットワークに向けた持続可能で水素適合性のあるシール材（Sustainable and Hydrogen-Compatible Sealing Materials for Safe H₂ Supply Networks、略称：SusSeal4H₂）」の成果を共有するものです。NOKは主催者の一員として、水素社会の実現に不可欠な持続可能なシール材の技術開発、および日本のゴム業界におけるサステナビリティの取り組みについて発表します。

本シンポジウムの参加は無料で、BAMベルリン会場での参加に加え、オンラインでも参加できます。

■開催概要

- ・名称：Sustainable Sealing Materials for Hydrogen
- ・日時：2026年5月12日（火）9:00～17:00（現地時間）
- ・形式：ハイブリッド開催（BAMベルリン会場およびオンライン）
- ・主催：BAM、九州大学、フロイデンベルグ・グループ、NOK
- ・対象：シール材、サステナビリティ、水素技術に関心のある関係者
- ・申込URL（英語）：<https://www.bam-akademie.de/kursangebot/kurs/nachhaltige-dichtungsmaterialien-fuer-wasserstoff-73.html?lang=en>
- ・申込期限：会場参加は2026年5月4日（月）まで、オンライン参加は2026年5月12日（火）まで
- ・参加費：無料
- ・使用言語：英語

■共同プロジェクト「SusSeal4H₂」と開催の狙い

NOKグループは「Essential Core Manufacturing – 社会に不可欠な中心領域を担うモノづくり」を掲げ、水素社会の実現に向けた技術開発を重点領域の一つとしています。2050年のカーボンニュートラル達成に向け、次世代エネルギーとして期待される水素の供給網では、極低温や高圧環境に耐えるシール技術が求められています。本プロジェクトでは、環境負荷を低減しながら、過酷な条件下で機能する次世代シール材の研究をグローバルな産学官連携で進めてきました。本シンポジウムを通じて、最新の研究成果を公開するとともに、国内外の専門家との議論を深め、水素インフラの安全性と持続可能性の向上に寄与することを目指します。

※1 ドイツ連邦材料試験研究所 (BAM)：材料科学および化学技術における安全性と信頼性の向上を目的とした、ドイツ経済・気候保護省直轄の連邦研究機関。

リリースに関するお問い合わせ

NOK 株式会社 コーポレートアフェアーズ室 コーポレートコミュニケーション部

TEL：03 - 5405 - 6372 Mail：mb_nok_corporate_affairs@jp.nokgrp.com

■ NOK 株式会社について

NOK グループは「Essential Core Manufacturing — 社会に不可欠な中心領域を担うモノづくり」を掲げ、豊かな社会の根幹となる「安全」と「快適」を支えています。15 の国と地域に所在する約 38,000 人で、積み重ねた基礎研究に基づく製品開発、高品質での大量・安定生産を実現しています。自動車をはじめとするモビリティ、PC やスマートフォンに代表される電子機器、医療・ヘルスケア機器、産業用ロボット、そして人工衛星など、あらゆる産業分野に技術・製品を提供し続けます。